

## II. 一般講演

### 1 肝硬変に伴う難治性腹水に対し分消湯を用いた一例

野澤 宗志 (ゆきぐに大和総合病院) (内科)  
 小林 豊 (同 和漢診療科)  
 笠原 裕司 (富山医科薬科大学) (和漢診療学教室)

【患者】80歳, 女性

【主訴】体重増加, 両下肢浮腫, 腹部膨満感

【現病歴】1987年11月より肝硬変症(それ以前の病歴は不明)による腹水, 浮腫, 肝性脳症にて入退院を繰り返していた。腹水, 浮腫が徐々に増悪し, 腹部膨満感と下腿浮腫が高度となったため2001年5月10日入院。

【経過】利尿剤の静注にて下肢の浮腫は軽減したが, 腹水は減少せず。上腹部膨満感が高度で食事がほとんど摂取できない状態だった。アルブミン製剤併用で腹水はやや減少したが, 併用を中止すると再増加するため, 浮腫, 腹水を「水腫」ととらえ, やや実証傾向であったため分消湯の併用を開始。分消湯開始後, 腹水は順調に減少し, それに伴い腹部膨満も軽減, 食事摂取量も回復し退院となった。

【考察】分消湯は「万病回春」記載の処方でも各種浮腫や腹水などに用いられる処方である。利尿剤で改善不十分な難治性腹水に分消湯の併用が有用であると考えられた。

### 2 六君子湯を中心とした新しい貧血治療の試み

関 義信 (県立小出病院) (内科)

【緒言】貧血治療には, 人参, 当帰などを含む気血双補剤が頻用される。日常臨床でよく遭遇する鉄欠乏状態の貧血の中でも鉄剤に反応しないものは, 鉄の吸収障害, 網内系からの利用障害等の病態から治療に難航する。六君子湯は古来, 万病回春などで脾胃虚弱者の消化障害に使われてきたが, 貧血治療にも有効とされる。

【目的】六君子湯の貧血改善作用を知るために,

鉄剤不応性貧血に対しその効果を評価した。

【方法】外来診療で造血器腫瘍が除外されておりかつ明らかな活動性出血性病変を認めない上記貧血患者に, 六君子湯エキス剤を投与し前後の血液学的所見, 併発する基礎疾患等を検討した。

【結果】評価可能であった6症例中4症例で貧血の改善を認めた。他に1例は2週後貧血は改善されていないものの血清鉄の上昇を認めた。大方の症例で萎縮性胃炎, 逆流性食道炎等の消化器疾患を併発していた。

【考察】経口鉄剤不応性の貧血の改善に六君子湯が有効と思われる症例を認めた。そのメカニズム, 適応患者の病態の決定は今後の検討課題である。

### 3 桃核承気湯を用いた精神病高齢者の一例

市原 綾子・諸橋 弘子 (文京病院) (内科)

〔症例〕N.C. T12生 女性; 基礎疾患 精神分裂病 多発性脳梗塞 腎結石 子宮筋腫; 問題疾患 膿尿 熱発と便秘 腹部膨満

【現病歴】入院時より寝たきりで, 全介助。尿汚染のため月に2~3回高熱をくりかえしていた。又, 便秘のため腹部膨隆し, 食欲も低下しがちであった。

【経過】便秘に対して, 従来通りの治療にても改善されないため, 漢方薬併用とした。古方でいう虚証に用いる漢方薬より開始し効果を期待するが全く反応が無かったため, 最後の切り札的に桃核承気湯を開始したところ, 約2週間後より, 軟便が1日2回程度自力で出せるようになった。

【考察】分裂病を基礎にもつ高齢女性に対し, 桃核承気湯を投与したところ, 便秘, 腹満が改善された。本例に実証に用いる桃核承気湯が有効だったのは, 子宮筋腫と慢性尿路感染症が瘀血の病態を形成していたことと, 分裂病が傷寒論中にある「その人狂の如し」の病態に近いためであったためと考える。